



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 66 号 2017/9/1 発行）

◆◆ <<https://www.iima.or.jp/>>



＼1. 理事長 渡辺博史 コラム／

AEC との関係

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2017/20170901watanabe.pdf>>

2015 年の年末に、ASEAN 加盟 10 か国を母体として、域内関税を基本的に撤廃し、投資・サービスの自由化を図る AEC (ASEAN Economic Community) という地域経済共同体が成立…

＼2. 客員研究員 竹中正治 コラム／

拡大する人手不足と労働需給のミスマッチ

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2017/20170901takenaka.pdf>>

人手不足を訴える業界や企業が増えている。日本経済の課題は、リーマンショック不況の 2009 年から 8 年経った今、失業から人手不足に完全にシフトと言えるだろう。成長…

■ホームページ 「IIMA の目」

短編コラム「IIMA の目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<https://www.iima.or.jp/research/column/index.html>>

1. 「低金利のインプリケーション」 武田 紀久子
2. 「責任ある経済運営を試されるアルゼンチンのマクリ政権」 森川 央
3. 「グローバル化や技術進歩を遠因とするポピュリズムとの共存に向けて」 矢口 満
4. 「8 月に想う：現実を直視しない国民の行末」 村瀬 哲司
5. 「選挙の年 ～ケニア大統領選からみる発展途上国の民主化～」 竹山 淑乃
6. 「8 月 1 日に分岐したビットコインの行方についての一考察」 志波 和幸

■IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新

<<https://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

《掲載内容》

○IIMA Global Market Volatility Index

（グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数）

○購買力平価グラフ

(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

■今月の新着レポート

1. 「量的金融緩和と一般債のリスクプレミアムに関する一考察

～欧州ユーロ建て社債市場の実証研究を参考に～」阿部 彰彦

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_21_j.pdf

日銀の「量的・質的金融緩和」は、国債の長短金利全体を低下させるとともに、イールドカーブをフラットに誘導した。本稿では、当該政策が一般債のスプレッドに与えた効果について、欧州ユーロ建て社債に関する実証研究を参考に考察する。

2. 「スリランカ経済の現状とリスク要因について

～産業の高度化による輸出品目の多様化は進むか～」中村 明

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_20_j.pdf

IMFの支援を受けたスリランカのマクロ経済は、経済成長、物価、財政収支がいずれも比較的良好に推移するなど概ね安定に向かっている。構造改革の進捗状況を点検し、短期および中長期のリスクについて考える。

3. 「ユーロ高と2つの構造要因」武田 紀久子

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/305_j.pdf

ユーロドル相場が2年半ぶりに大きく動意付いた。その背景として、ユーロ側の循環的な好材料（景気・政策・政治）もあるが、より重要な構造要因として、ユーロ圏での「経常黒字の蓄積」、米国での「上がらない自然利子率」がある。

4. 「資金循環表にみる中国の金融 2015」山口 綾子

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/304_j.pdf

中国の資金循環を中国人民銀行のデータをもとに分析。

5. 「Japanese Current Account Structure: Its Regional Features and Implications」Akira Nakamura

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_6_e.pdf

「日本の経常収支の地域別にみた特徴と示唆」の英語版

6. 「Strong Indian Economy: Its Backgrounds and Risk Factors」Akira Nakamura

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_5_e.pdf

「インド経済好調の背景とリスク要因について」の英語版

7. 「Roles of Insurance and Pensions in the APEC Region」Ryota Mizuno

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_4_e.pdf

8. 「Brexit と英ポンド・リスク」 武田 紀久子

https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2017/NL2017No_19_j.pdf

英国のEU離脱を巡る視界不良は国民投票から1年が経過した現在も晴れないばかりかますます混迷を深めている。こうした中、ジェトロ・サーベイで明らかになった日系進出企業の最大の懸念が「為替への影響（ポンド）」。本稿では通貨ポンドの取引実勢や特徴を改めて概観し、先行きの変動リスクについて考える。

9. 「日本の経常収支の地域別にみた特徴と示唆」 中村 明

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/303_j.pdf

日本の経常黒字は第一次所得収支が大きな割合を占めるようになったが、対米経常黒字においては、依然として貿易黒字の割合が大きい。こうした対米経常収支の特徴が示唆することを、日本の製造業による現地生産の動向を踏まえて考察する。

10. 「一次産品ブームによるブラジルの輸出構造の変化」 森川 央

https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2017/302_j.pdf

一次産品ブームの間、ブラジルの輸出は伸びたが、工業品などは却って伸び悩んでしまった。いわゆる「資源の呪い」を世界産業連関表のデータで検証してみる。そして資源の呪いを解いた国としてインドネシアを取り上げ、両国を比較してみる。

■ 今月の IIMA

IIMA では調査研究のノウハウを活かして、今月下旬より JICA からの受託事業である「アセアン地域債券市場整備（Ⅱ）」の研修に取り組み、来月には「南部アフリカ地域開発金融機関のためのプロジェクトバリューチェーンの強化」の研修にも携わる予定です。十数カ国からの研修生が参加するこれらの事業は、様々な国の人たちと積極的に情報交流を行う場でもあります。

世界情勢を見ると、過激派組織「イスラム国」によるテロ事件や、トランプ米大統領による白人優越主義の容認発言などでは、自分たち以外の文化や宗教等を排除しようとする考え方が根底にうかがえます。しかし、IIMA の国際交流では、国や文化、宗教等が異なっても十分に分かり合えるという実感を得ています。

IIMA では、こうした交流活動を通して得た様々な情報を発信するとともに、わずかながらでも世界平和に貢献できればと考えております。

【バックナンバー】

[〈https://www.iima.or.jp/mailmagazine.html〉](https://www.iima.or.jp/mailmagazine.html)

【次号】

2017年10月2日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

[〈https://m.entryform.jp/m/iima/〉](https://m.entryform.jp/m/iima/)

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <https://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.